

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



Monthly Theme

居住スペースが一体となった オープン型 二世帯住宅の実際例

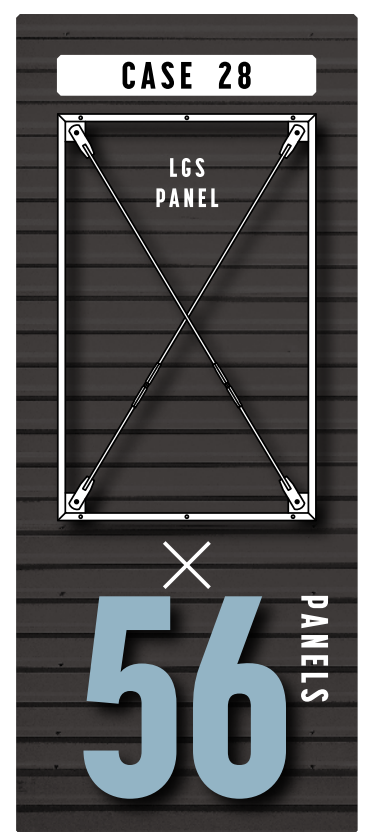
アウトドア好きクルマ好きの二世帯家族のBASE(出撃基地)として、現在実際に計画しているのがこのプランです。家においてもキャンプしている感覚の住宅なのです。



庭に対して気持ちよく開放されたリビング空間。ガレージ横には土間の玄関があり、また鉄骨の骨組みが露出していることも古民家との共通要素。新しく古い、オーソドックスで活動的。空間が暮らしのスタンスを表現するのです。

Living

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスした部分は、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.

代表:玉田敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

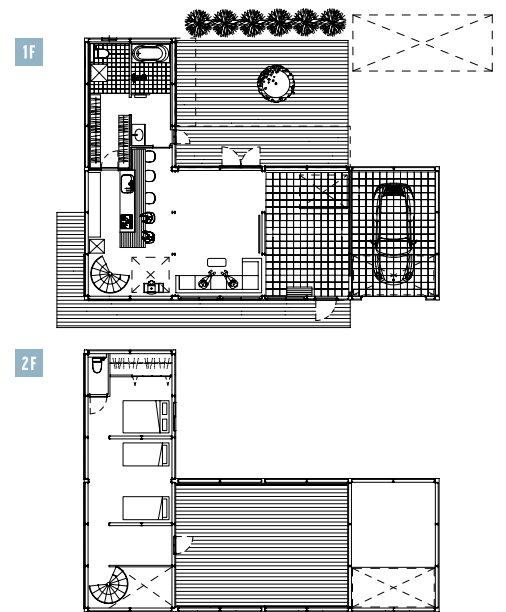
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



大きな庇とシンボルツリーが印象的な中庭のデッキスペース。シンボルツリーには落ち葉が少なくエネルギーを蓄える植栽を。縄文人ご用達のドングリになる木の総称ですね。夜は木をライトアップして二世帯で語らう。テレビはいらない、これぞ日本のミッドセンチュリースタイルです。

Wood Deck

FLOOR PLAN



プランの特長はL型住宅、中庭のデッキスペースを包み込み適度なプライバシー感に寄与しています。ガレージを含めると半分土間の住宅であることがよく分かります。よく考えるとこの点も古民家に似ているのかもしれない。だとすると、アイランドキッチンが現代の囲炉裏ということでしょうか。

旧来の二世帯住宅のイメージと言えば、引退した親世代が渋茶をすって庭いじり。子世代はたまに孫の世話を頼みながら共働き。玄関も水まわりも別々にして……というパターンが目につきます。しかし、例えば親子揃ってクルマ好き、アウトドアの達人だったらどんな二世帯住宅になるでしょう。商品住宅の世界ではあまり例がなかった、孫を含めて三世代に渡る家という名の、BASEを愛媛県に計画中の実際例をご紹介します。考えてみます。

まず、この家の特長は玄関のある道路側を背にして反対の庭の方向に開いていることです。コンテナの収納庫などを上手に使いながら、プライバシーの確保されたデッキスペースをつくり、大きな開口で解放した居住スペースをシンプルモダンに形成。デザインの基調はスルー。外部の自然に対して、ガラス一枚でつながっているような直線的な意匠の空間を構築しています。これがすなわち、「ミッドセンチュリー」と呼ばれるデザインスタイルです。

親世代と子世代の居住空間は一体となっており、従来型のプライバシー分節をしません。家族の趣味は週末のキャンプ。この家は家族全員にとつての出撃基地なので、余分な仕切りはいらないうです。玄関は大きな土間になっていて、トレイニング機器や薪ストーブを設置。半分は土足生活。孫は成長するとハンモックを鉄骨の梁に吊るして寝ると言い出す始末。二世帯住宅でもこんなに楽しい。基地は出来るのです。